

年
 組
 番
 名前

教材 1-H-(1)の解答 古代から中世までの史料（部分要約）

次の（ア）～（ス）の【史料】の説明としてあてはまる時代を、【表】の中の①～⑨から選び、番号で答えなさい。

【表】

① 縄文 <small>じょうもん</small>	② 弥生 <small>やよい</small>	③ 古墳 <small>こふん</small>	④ 飛鳥 <small>あすか</small>	⑤ 奈良 <small>なら</small>	⑥ 平安 <small>へいあん</small>	⑦ 鎌倉 <small>かまくら</small>	⑧ 南北朝 <small>なんぼくちよう</small>	⑨ 室町 <small>むろまち</small>
------------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-----------------------------

【史料】

（ア） 今日けふは威子いし（娘）を皇后こうごうに立てる日である。・・・太閤たいこうがわたしを呼んでこう言った。

「和歌をよもうと思う。ほこらしげな歌であるが、あらかじめ準備していたものではない。」

この世をば わが世とぞ思おもう 望月もちづきの欠けたることも 無しと思えおもば
(「小右記」)

（イ） 楽浪郡らくろうぐんの海のかなたに倭人わじんがいて、100以上の国を作っていた。
(「漢書」地理志)

（ウ） 一 諸国しよこくの守護しゆごの仕事は、御家人ごけにんの京都を守る義務を指揮・催促さいそくすること、謀反むほんや殺人などの犯罪人を取り締まることである。(御成敗式目第3条)

（エ） 邪馬台国やまたいこくはもともと男の王がいたが、その後国内が乱れたので一人の女子を王とした。名を卑弥呼ひみこといい、成人しているが夫はおらず、一人の弟が国政を補佐している。(「魏志倭人伝」)

（オ） 一に曰いわく、和をもって貴たつとしとなし、さからうことなきを宗むねとせよ。
(「日本書紀」)

（カ） から衣 すそに取りつき 泣く子らを
置きてぞ来ぬや 母なしにして
(「万葉集」防人の歌)

（キ） 建武中元2年に倭の奴国なこくが後漢ごかんに朝貢ちようこうしたので、光武帝こうぶていは印綬いんじゆ（印とそれに結びとめるひも）をおくった。(「後漢書」東夷伝)

（ク） みな心を一いつにして聞きなさい。これが最後の言葉です。頼朝よりともの殿が平氏へいしを征伐せいばつし、幕府を開いて以降、その御恩は山よりも高く、大海よりも深いものです。お前たちも御恩に報いる気持ちはあるでしょう。ところが今、執権北条しつけんほうじよう義時よしときを討てという命令ちようていが、朝廷から出されました。(「吾妻鏡」)

(ケ) 領地の質入れや売買は、御家人の生活が苦しくなるもとなので、今後は禁止する。・・・御家人以外の武士や庶民が御家人から買った土地については、売買後の年数にかかわらず、返さなければならない。

(コ) このごろ都ではやっているものは、夜うちや強盗、天皇のにせの命令、逮捕された人や緊急事態を知らせる早馬、何もないのに騒動がおきる。

(「建武年間記」)

(サ) 人なみに働いているのに、ぼろな服をかけ、おしつぶされ低くなった小屋の中で地べたにわらをしき、父母は私のまくらもとで、妻子は足もとにいて悲しんでいる。・・・これほどまでにどうしようもないものなのか、この世に生きるということは。

(「万葉集」山上憶良 貧窮問答歌)

(シ) 墾田は、一定期間ののちに国が回収し、班田収授用の田としている。このため農夫はやる気をなくし、開墾した田畑もまた荒廃させてしまうという。今後は自由に私有地とし、国は、みな永久にこれを回収してはならない。

(「続日本紀」)

(ス) 正長元年9月、天下の土民が暴動をおこした。徳政ととなえ、酒屋・土倉・寺院などをこわし、雑物をうばい、借金証書などを破った。管領がこれを成敗した。

(「大乗院日記目録」)

史料にはその時代のキーワードが含まれています。よく読んで見つけましょう。時代の様子が分かります。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
⑥	②	⑦	②	④

(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)
⑤	②	⑦	⑦	⑧

(サ)	(シ)	(ス)
⑤	⑤	⑨